

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/05/01 ～2019/05/31)

5月上旬はまだ雪が積もっていたはずなのに。ふと窓の外を見ると、草や木々が一晩で生い茂っ



たと錯覚するほどに急成長しており、夏の到来は突然でした。日に日に視界が生命力みなぎる緑で埋め尽くされていくことに、私は戸惑いが隠せませんでした。

町はあたり一面のタンポポで埋め尽くされ、黄、青、緑のコントラストが絵画のように美しい景色を彩ります。友人と寝そべりながらのピクニックは夢のひと時でした。



この9か月間。

留学の成功とは何か。それは他人からの評価で決まるものではない。自分自身で評価することが大事で、留学の最後に、これ以上改善することができない留学だったと言えること、だと思いません。その時その時に、自分に対して後悔が残らない行動選択をできていたのなら、努力が足りなかったと思う部分があっても、最後に自分にとってかけがえのない経験だったと思えるのではないのでしょうか。

私の留学目的は、「自分のしたいことを探す」ことでした。透明の規範に縛られ、連続的で暇が認められない日本社会、その中で流されていくことに不安が芽生えたのが始まりだと思えます。ちょっと待って、流されたくない、一回立ち止まりたい、自分の声を聴きたい、日本の中にいらざっと答えが出なさそうな混沌とした疑問と向き合いたい、そう思って飛び出した、直感を信じたそのときの自分、そのときの決断がなかったら。人生も全く変わっていたのかもしれない。

勉強での学びはもちろんですが、留学全体を通し、体系的に、根本的な深い学びを得ることができたように思います。

自分の人生をしっかりと築く上で一番大切に基本的なこと、自分の心に向き合うということ。周りに流されないためには、自分の気持ちをおろそかにしないこと、自分の価値と可能性を信じること、自分の直感や意見を信じ、尊重すること。また同時に、友人の存在は自分の人生に多くの機会と希望を与えてくれるということ、その他多くのことを自然に吸収していきました。フィンランドのシンプルで素直な考え方や暮らしが自分の中で府に落ち、広がっていったのでしょうか。なぜ？を常に問い、本質だけを見抜き長く愛する。フィンランドが大好きになった要因の一つです。

単位互換はあまり望めないという了解のもと留学しましたが、かえって単位を気にせず自由に受講できたのは、自分のしたいこと探しというテーマには沿っていたと思います。院生向けの授業から、教育、宗教など、興味あるものに気軽に触れることができ、あらゆる方向へ興味の枝を伸ばすことにつながりました。

フィンランドでは授業はフィンランド語または英語で行われます。留学生用に英語の授業が存在するようなものなので、英語の授業はほぼ留学生ですが、まれにフィンランド人も混ざっていることがあるようです。授業を進行する先生たちは、母国語がフィンランド語なので、流暢な人、フィンランド訛りの強い人など様々ですが、他非英語圏と比べると圧倒的に不自由ないです。英語圏への留学がメジャーですが、個人的に北欧への留学はとても良い選択だと思っています。全く新しい文化や言語に触れるのも有意義で刺激的です。

フィンランド人について紹介

日本の大学と同じように、フィンランド人と留学生は二分化しています。私たち日本人が留学生と仲良くなりたいと思ってもなかなか勇気が出ないように、フィンランド人も一歩が踏み出せないようです。食堂ではフィンランド人が大多数ですが、フィンランド語で話していますし、大学のイベントにもあまり参加してこないのを知り合いにくいです。これもまた日本人と同じように、英語が喋れるのに自信がない人が多く、「ごめんなさい、私英語うまくしゃべれなくて…」と恐縮してしまうフィンランド人を見かけます。初対面は距離も遠く、日本人とよく似ている点があります。

でも、内面は真逆だと思うのです。個性を重要視し、お互いに尊重します。おちゃめで、なぜかコメディアン精神が備わっており、自虐ネタが得意です。またプライベートに関して、日本よりオープンです。仲良くなった友達はすぐにコテージに招待したり、家族と友人の間に壁はなく、遊びに行くと友人の親と友達になる感覚です。仕事が終わっても飲み会のようなものではなく、すぐ家に帰って家族の時間を楽します。または、お父さんはたいてい趣味を持っていて、仕事終わりにバレーボール、なんてことも。

学校の先生たちも、年齢の差や立場の差はあまり感じません。生徒と対等な立場で、学びに対して常に謙虚な姿勢を持っている先生が多い印象を受けました。

言語

仲良くなるのに言語って本当に関係ないなと思います。英語が片言の友達がいましたが、2人ともいつも人気者でグループの中心でした。簡単な英文だけで、周囲を数分間、床でのたうち回るほどの大爆笑の渦に巻き込んだときもありました。彼らと私は何が違うのだろうか…。ある日それは自信の有無による差だと気が付きました。彼らは文法でミスをし、詰まったり、内容を理解できていなかったり。それでも、英語上級者と堂々と対等に話しています。私はというと、「詰まったらどうしよう」「この人英語が下手だなとか思われてないかな」…ネガティブな言葉が頭を渦巻き、常に緊張し、間違えたときは自分を責め、恥ずかしさでいっぱいでした。まして彼らのように、わからない単語があったとき素直に「教えて」なんて、プライドが邪魔して言えませんでした。しかし、誰もそんなこと気にしてない、言語を超えて自分の内面を見てくれようとしているんだ、と気づいたとき、英語はただの意思疎通の一つのツールと化しました。英語の間違いを気にして、いつまでも自分の中身を伝えないなら、ずっと辛抱強く私のことを知ろうと話しかけてきてくれる友達に失礼じゃないか、そう思ったのです。

話すことへのストレスは、言語上達の邪魔をします。また、言語は、ある目的を果たすための道具として上達していくと思います。だから、ストレスを与えるような人と一緒にいるべきではない。自分の中身を理解してくれる友達、この人のことを知りたいから英語をもっとすらすらしゃべりたい、そう思えるような素敵な友達が、留学生生活を左右すると思います。

5月の様子

Koli のコテージに宿泊しました。私含め 3 人はバスでしたが、他数人は自転車で 7 時間ほどかけて到着しました。

次の日は小雨の中ハイキング。Koli はむき出しの岩々が連なっており、急斜面を滑らないように上らなければなりません。ところどころ雪も残っており、数回こけました。滝が珍しいフィンランド、Koli の山中で偶然滝を見つけたときは一同大興奮でした。

その次の日も、一本のソーセージをグリルするためだけに山の中をひたすら、ひーひー言いながら歩きました。森の中にきちんと整備されたグリル場があり、いつでも気持ちよく使用できる状態になっているのです。鳥の音が響く静けさの中で食べるソーセージは格別です。

コテージは帰り際、掃除をしなければならないルールになっていました。ホテル感覚の私たちにとっては違和感がありましたが、これが普通のようなようです。グリル場も綺麗に使用されている様子を見ると、森はみんなのもの、森を楽しむ設備はみなでシェアするもの、という共通概念が根付いているのでしょうか。



フィンランドが 8 年ぶりにアイスホッケーの試合で世界一に輝きました！

友人宅での観戦。小さい部屋に人数およそ 30 人超えが、ぎゅうぎゅう詰めになって応援しました。優勝した後は国中大騒ぎで、普段は閑散としたヨエンスー市内は車の大渋滞に、たくさんの人。裸になって歌い踊ったり、クラクションを鳴らしたり。それほど喜んでいる彼らを見て私も嬉しいです。ヘルシンキは次の日もお祭り騒ぎが続いたようです。

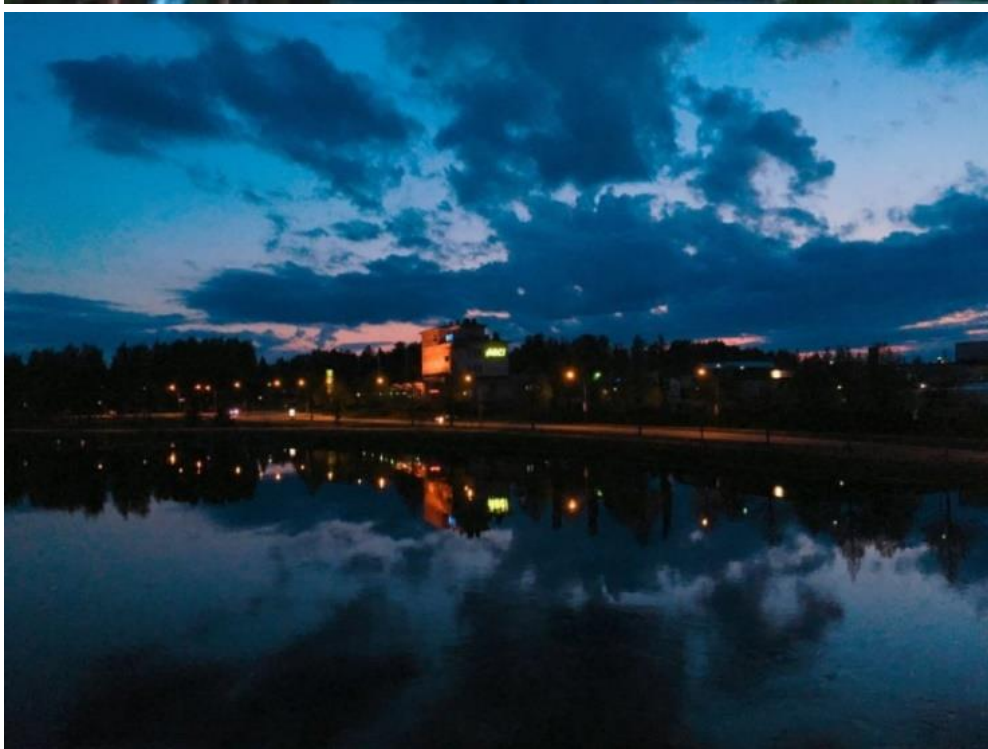
面白かったのは、スウェーデンとの試合の白熱さ。兄弟のような関係のフィンランドとスウェーデン。スウェーデンに勝つことは、他の国に勝つこととは少し意味が異なるのです。



お別れ前の夜の散歩。
夜 11 時頃です。
このころになると、
夜通し空が
薄ら明るくなりました。



教会前にて。
どこまでも続く
見事ないわし雲。



橋の上から偶然遭遇できた
マジックアワー。
といっても夜 11 時頃です。
鏡のような湖に写る空、
壮大な景色でした。

(おまけ)

<食べ物シリーズ第2弾！>



←

料理男子の多いフィンランド。今回はチョコレートケーキを作ってくれました。Kladdkaka という、フォンダンショコラ風のねっとりとしたチョコレートケーキ。スウェーデン発祥だそうです。一口食べれば止まらない、魔のケーキです。上に乗っているのはココナッツパウダー。



→

Pasha というロシア発祥のケーキ。イースターの食べ物です。サワークリームベースで、さっぱりなめらかなくちどけです。中にアーモンドや、シロップ漬けのさくらんぼ、ドライフルーツなどを入れます。



マカロニキャセロール、リンゴンベリー添えです。(キャセロールはこのようにボウルに入れてオーブンで調理する料理すべてを指すようです)。フィンランドには辛い料理がありません。スーパーで最も辛いタコスソースを買っても、全く何も感じないほどです。ただアジアンレストランでは辛いものを提供しているのでご注意を。



←

Raparperipi irakka (ルバーブのパイ) です。ルバーブとは、見た目が赤いセロリのような野菜です。こちらではフルーツのような存在で、甘酸っぱい味がします。アイスにもルバーブ味があったり。

このパイは間違いなく私のお気に入りです。さっぱりした後味で、くちどけが良いです。

→

ルバーブ



←

そしてもちろんシナモンロール。ポイントは生地練りこんだカルダモンパウダー。香ばしい香りのためには欠かせません。友人の作る焼きたてシナモンロールは格別です。

最後のシナモンロールでした。恋しくなります。